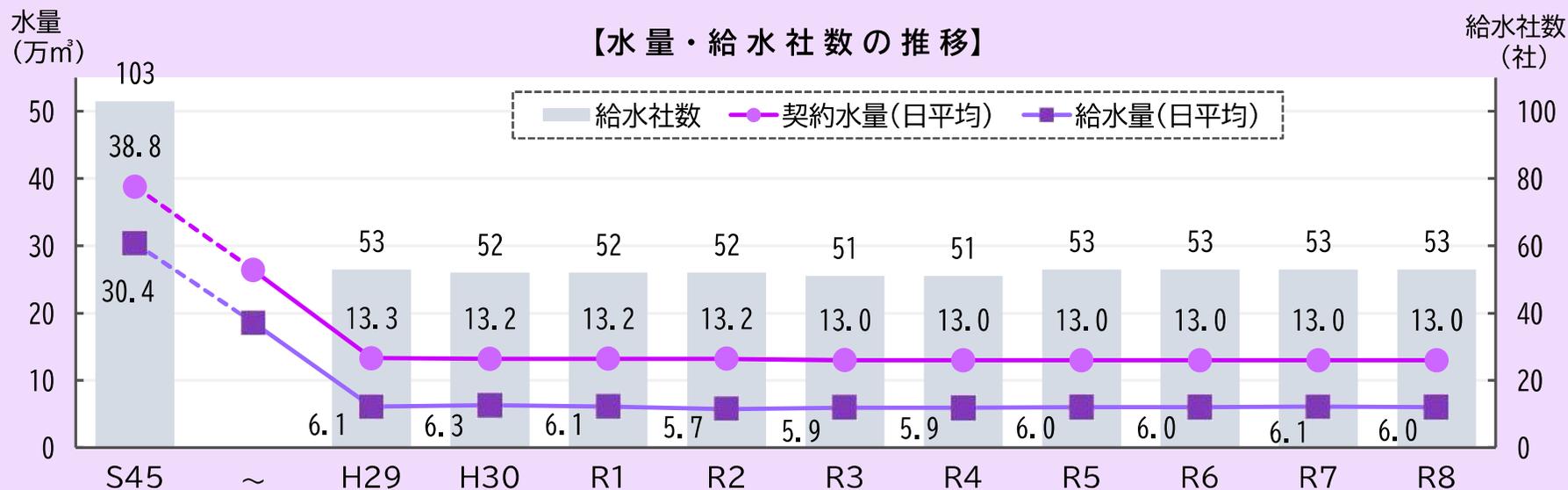


## 1 事業の概要

区分		令和8年度	令和7年度	増減	増減率
給水社数		53社	53社	0社	0.0%
契約水量	年間総量	47,582,000 m <sup>3</sup>	47,582,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0.0%
	年度末(日量)	130,363 m <sup>3</sup>	130,363 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0.0%
給水量		21,836,400 m <sup>3</sup>	22,235,700 m <sup>3</sup>	△ 399,300 m <sup>3</sup>	△ 1.8%



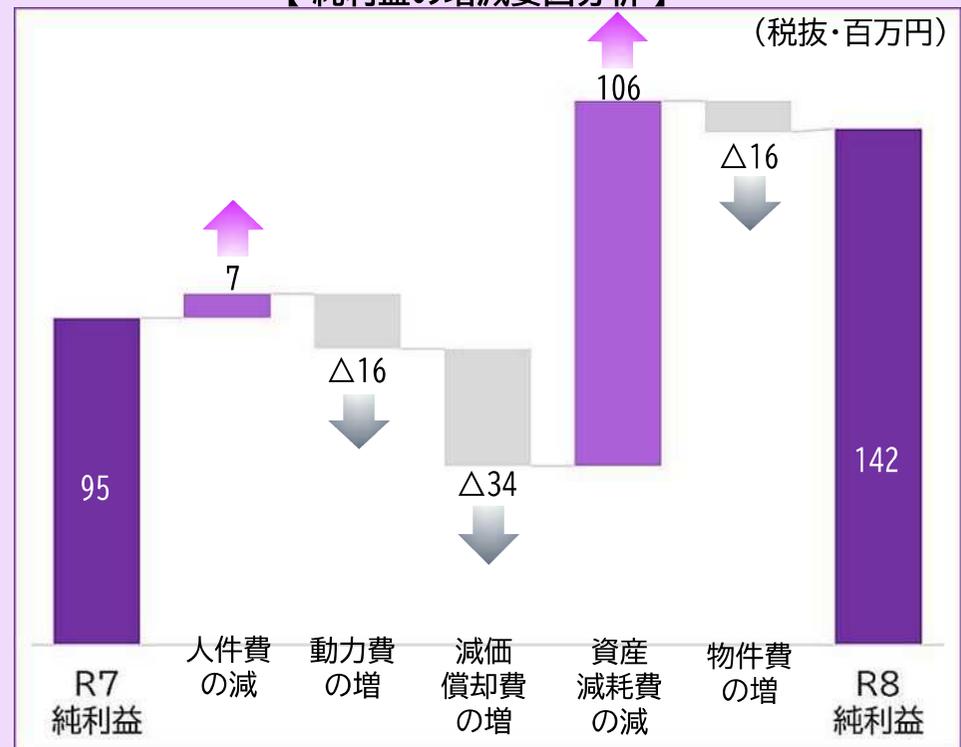
- 給水社数は前年度と変わらず53社
- 年間給水量は1.8%の減で2,184万m<sup>3</sup>
- 給水社数、契約水量や給水量は、直近10年間ではほぼ横ばいの状況

## 2 収益的収支・資本的収支（フローの視点）

（税込・百万円）

		令和8年度	令和7年度	増減額	
収益的収支	収入	2,024	2,026	①	△ 1
	支出	1,843	1,865	②	△ 22
	収支差	182	161		21
	純利益（税抜）	③ (142)	(95)		(47)
資本的収支	収入	139	139		0
	支出	1,623	1,003		620
	差引(A)	④ △ 1,484	△ 864		△ 620
補てん財源(当年度発生分)(B)		600	534		66
資金収支(A+B)		△ 884	△ 331		△ 554
資金残高		⑤ 6,863	7,747		△ 884

【純利益の増減要因分析】



- 収益的収支の収入は前年度とほぼ同額（①）、支出は2千万円の減（②）、純利益は5千万円の増で1億4千万円（③）
- 資本的収支不足額は14億8千万円（④）で、その補てんを反映した資金残高は68億6千万円（⑤）

- 純利益は、減価償却費の増や物件費の増などの悪化要因があったものの、資産減耗費の減などの改善要因があり、全体で5千万円の増

## 3 収益的収支・資本的収支の内訳

## 収益的収入

(税込・千円)

	令和8年度	令和7年度	増減額
工業用水道事業収益	2,024,414	2,025,777	△ 1,363
經常収益	1,820,814	1,822,177	△ 1,363
給水収益	1,194,605	1,196,574	△ 1,969
長期前受金戻入	58,977	67,541	△ 8,564
その他収益	567,232	558,062	9,170
特別利益	203,600	203,600	-

## 収益的支出

	令和8年度	令和7年度	増減額
工業用水道事業費用	1,842,568	1,864,944	△ 22,376
經常費用	1,842,468	1,864,844	△ 22,376
人件費	190,582	197,161	△ 6,579
給料・手当等	165,236	161,087	4,149
退職給付費	25,346	36,074	△ 10,728
動力費	319,620	301,809	17,811
薬品費	33,659	29,379	4,280
減価償却費等	463,628	543,367	△ 79,739
物件費	834,979	793,128	41,851
特別損失	100	100	-

## 資本的収入

(税込・千円)

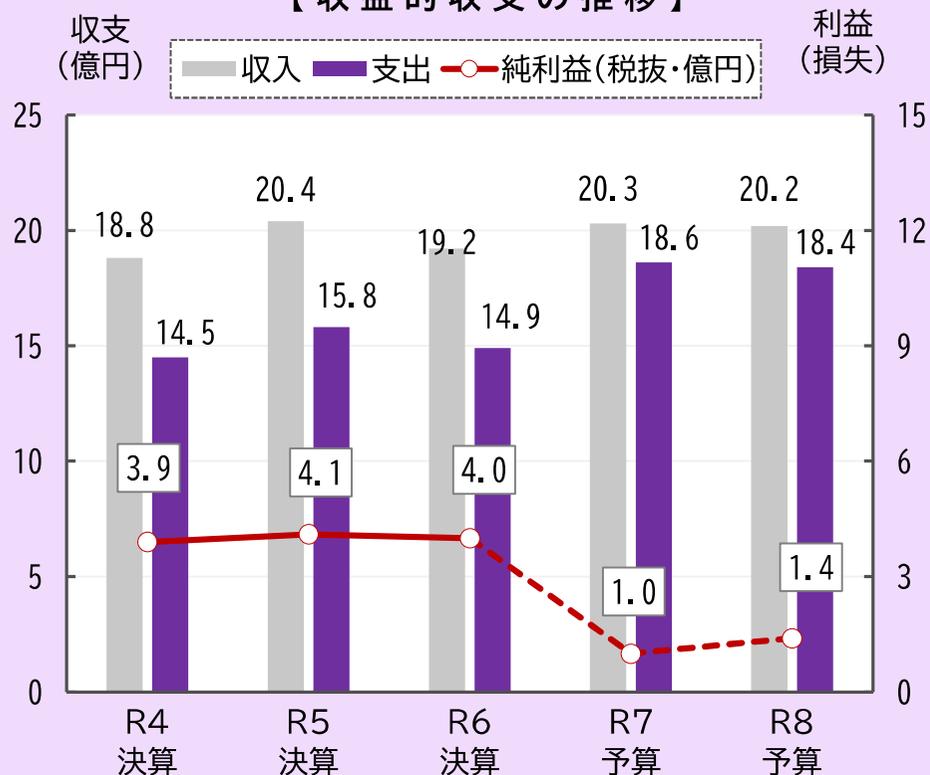
	令和8年度	令和7年度	増減額
工業用水道事業資本的収入	138,519	138,520	△ 1
固定資産売却代	38,399	38,400	△ 1
投資有価証券償還金	100,120	100,120	-

## 資本的支出

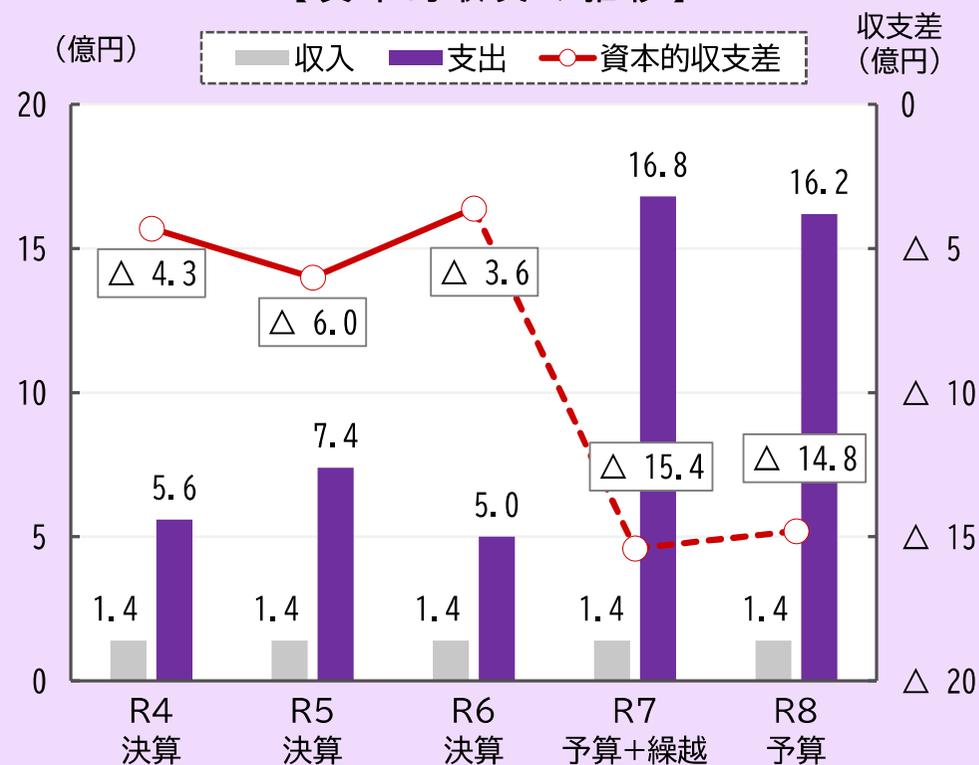
	令和8年度	令和7年度	増減額
工業用水道事業資本的支出	1,622,665	1,002,810	619,855
人件費	11,835	12,372	△ 537
建設改良費	1,007,830	887,438	120,392
投資有価証券	600,000	100,000	500,000

## 4 収益的収支・資本的収支の推移

【収益的収支の推移】



【資本的収支の推移】



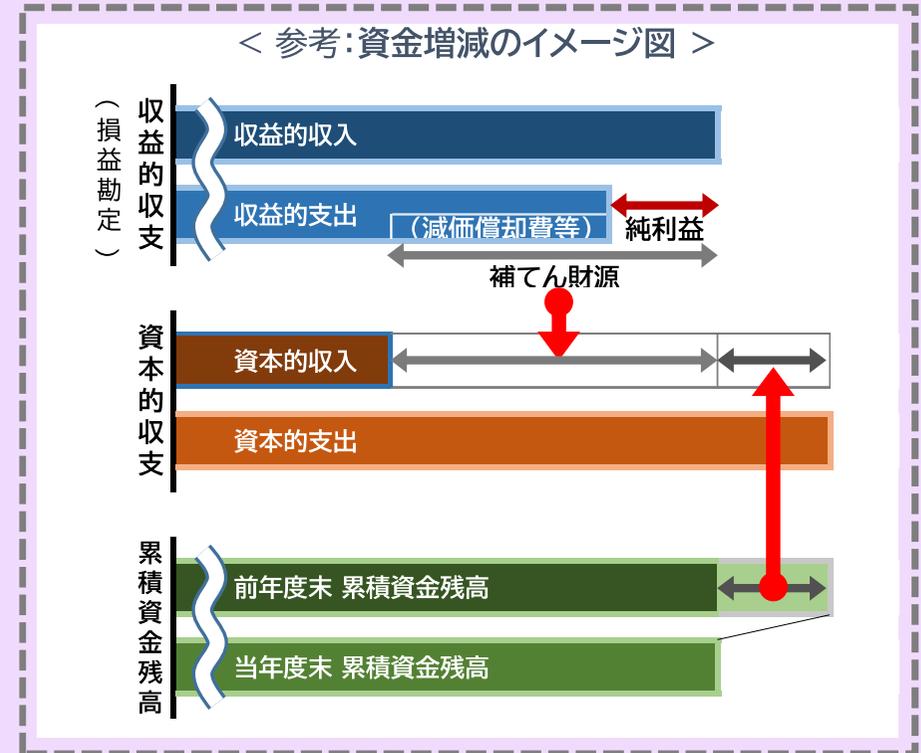
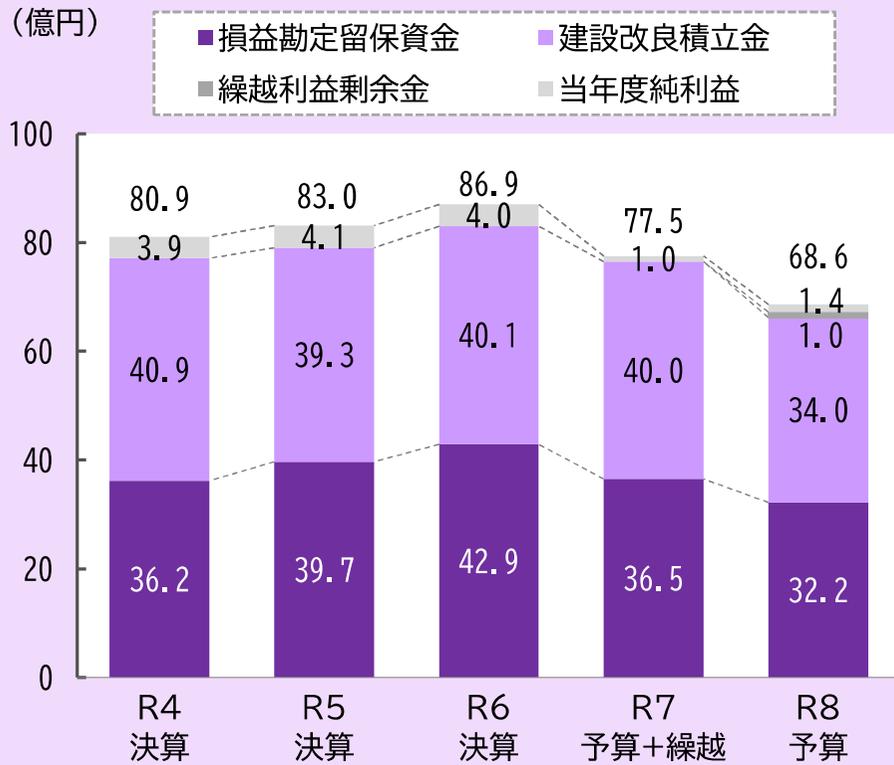
- 主な収入は給水収益（11.9億円）、共同施設管理収益（4.8億円）など
- 主な支出は共同施設管理費用（7.4億円）、減価償却費（4.2億円）など
- 収益的収支は概ね横ばいの状況（R6からR7への変動は予算と決算のちがいによるもの）

- 主な収入は投資有価証券償還金（1億円）
- 主な支出は建設改良費（10.1億円）、投資有価証券（6億円）
- 資本的収支不足額は損益勘定留保資金等により補てん

※（ ）内はR8予算

## 5 累積資金残高の推移（ストックの視点）

【累積資金残高の推移】



資金収支の推移

(億円)

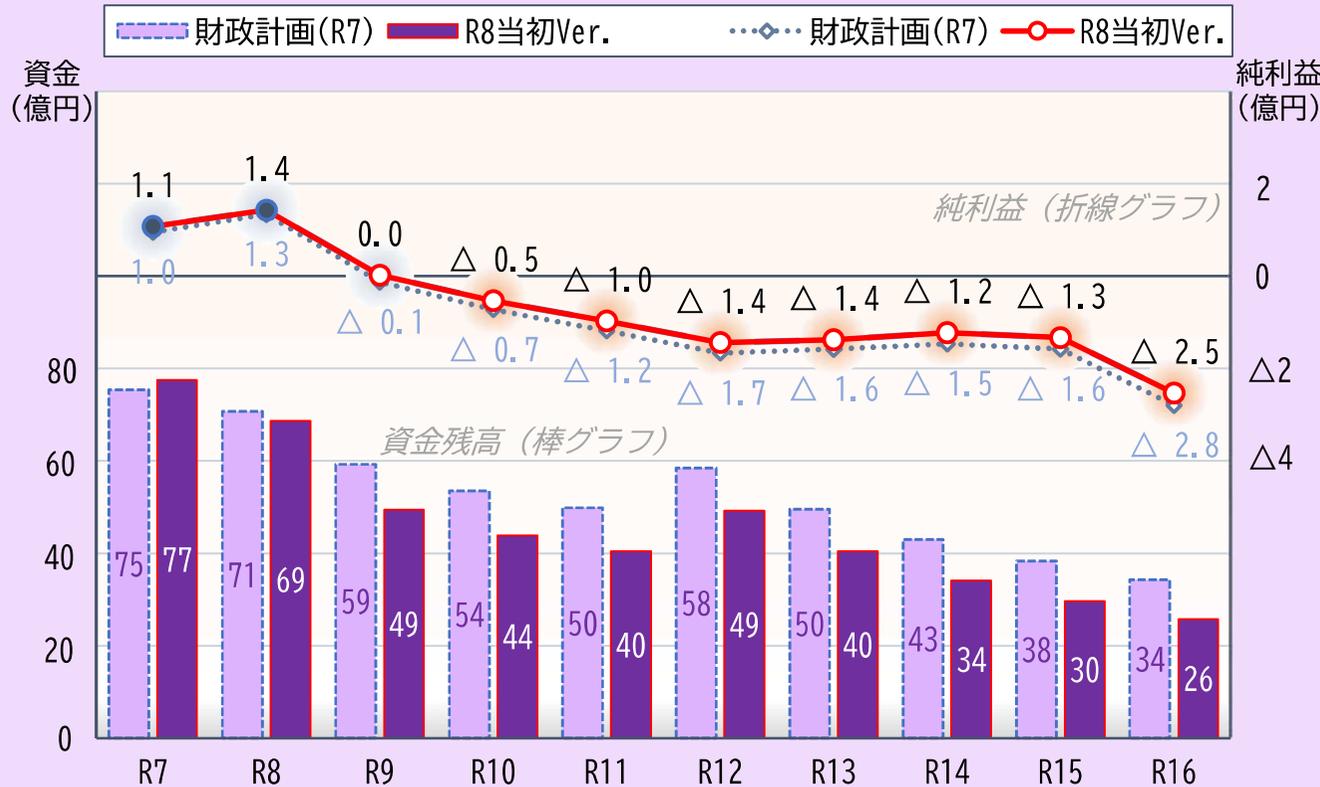
	R4	R5	R6	R7	R8
資本的収支の差(A)	△ 4	△ 6	△ 4	△ 15	△ 15
補てん財源(B)	8	8	8	6	6
資金収支(A+B)	3	2	4	△ 9	△ 9

※R4~6: 決算、R7: 予算+繰越、R8: 予算

- 資本的収支不足額に対し、まず補てん財源（当年度の純利益、損益勘定留保資金等）を充て、なお不足がある場合は、資金（過年度の純利益、損益勘定留保資金）で補てん

## 6 財政計画との比較（収支見通しのローリング）

【 収支見通し（折線グラフ・右軸）】  
 【 資金見通し（棒グラフ・左軸）】



【収支見通し(純利益)】

(億円)

	R7	R8	R9	R10	R11
財政計画(R7)	1.0	1.3	△ 0.1	△ 0.7	△ 1.2
R8当初Ver.	1.1	1.4	0.0	△ 0.5	△ 1.0
差引	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2

	R12	R13	R14	R15	R16
財政計画(R7)	△ 1.7	△ 1.6	△ 1.5	△ 1.6	△ 2.8
R8当初Ver.	△ 1.4	△ 1.4	△ 1.2	△ 1.3	△ 2.5
差引	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3

【資金見通し】

(億円)

	R7	R8	R9	R10	R11
財政計画(R7)	75.4	70.8	59.3	53.6	49.9
R8当初Ver.	77.5	68.7	49.5	43.9	40.4
差引	2.1	△ 2.1	△ 9.8	△ 9.7	△ 9.5

	R12	R13	R14	R15	R16
財政計画(R7)	58.5	49.6	43.0	38.4	34.3
R8当初Ver.	49.2	40.5	34.1	29.7	25.8
差引	△ 9.3	△ 9.1	△ 8.9	△ 8.7	△ 8.5

- R8年度予算や事業進捗等を基に置換（給水収益&受水費、建設改良費&減価償却費等、人件費、物件費等）
- 引き続き、現状の工業用水道ユーザー数が持続するものと見込んでいるため、収支見通しに大きな変動はなし
- R8年度予算を踏まえ、投資有価証券の増による資金運用利息の増（R9-16平均：△0.3億/年）を反映したこと等により、赤字が見込まれるタイミングはR10年度（置換前：R9年度）となるなど、置換前と比較すると見通しは若干改善